

「中野区小中連携教育7年間のまとめ」について

小中連携教育については、本区の重点施策の一つとして、平成25年度から、区内全ての小・中学校において、7年間の計画に基づき、展開してきたところである。今年度は、その計画における最終年度に当たる。

そこで、小中連携教育のこれまでの取組について、成果と課題を明らかにし、令和2年度以降の「保幼小中連携教育」のあり方や方向性に資するものとするため「中野区小中連携教育7年間のまとめ」を作成した。

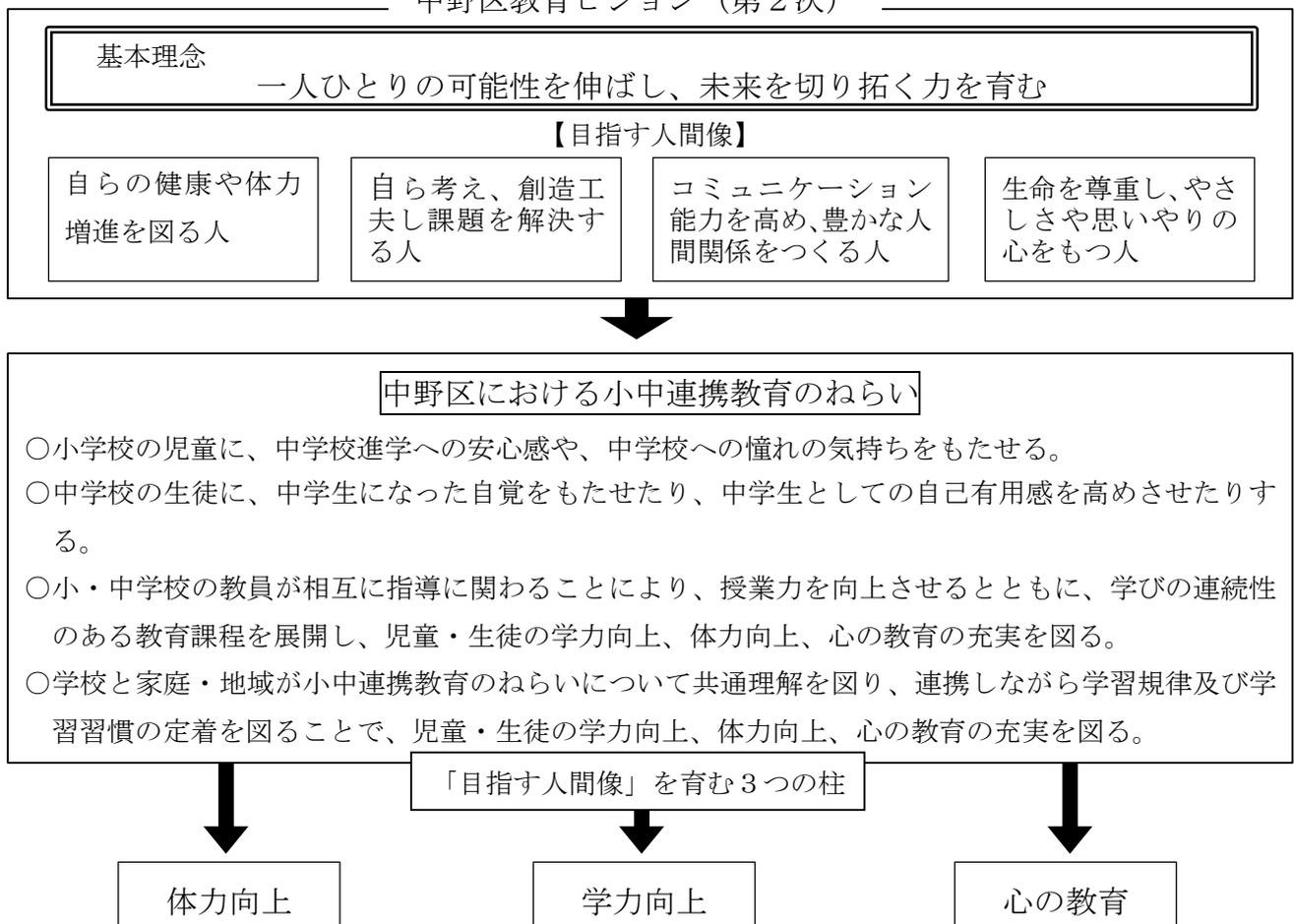
なお、成果と課題(概要)等については、下記のとおりである。

記

1 これまでの小中連携教育の目標(ねらい)

*平成25年度設定

中野区教育ビジョン(第2次)



2 7年間の成果と課題

小中連携教育のねらいのうち、小学校児童に中学校進学に向けての安心感や憧れの気持ちをもたせること、中学校生徒に中学生になった自覚をもたせたり中学生としての自己有用感を高めさせたりすることについては、小・中校長会から、小学校・中学校共に成果があり、このことが落ち着いた学校生活につながっていると報告がなされている。

これは保護者アンケートにおいても、明らかであり、小・中学校共に上記内容

の項目の肯定的回答の割合は上昇している。上記の表のとおり、平成25年度では、「十分」「まあ十分」と回答した保護者の割合は小学校61.3%、中学校70.3%であったが、7年間の年次計画の終盤で小学校が約5%、中学校は約10%増の結果となった。小中連携教育の取組については、一定程度成果があったと言える。

一方、小学校長会からは、接続学年の児童の意識は高いが、その他の学年の児童及びその保護者の意識を高めることは難しいとの報告があり、課題である。

なお、3つ柱における7年間の成果と課題（概要）については、以下のとおりである。

年度	平成25年度		平成30年度
小学校	61.3	⇒	66.2
中学校	70.3	⇒	80.9

取組	成果	課題
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携教育に取り組むことで、どの学校も落ち着いた教育環境の中、学習することができている。 ・「中野区学力にかかわる調査」の結果では、平成31年度は下がったが、小中連携教育に取り組んだ7年間で全体的に見ると上昇傾向であり、一定の成果が現われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から考え、記述する設問では、数年来、無回答率が多いなどの課題が見られる。今後、児童・生徒に思考力・表現力や、語彙力を身に付けさせる取組が必要である。
体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の保健体育科教員による小学校への乗り入れ指導が行われることで、児童の運動に対する苦手意識が払拭されてきた。 ・「中野区体力にかかわる調査」の結果では、全体的に上昇傾向が見られた。特に中学校では男女ともに向上している。種目別では、「反復横跳び」「50m走」「持久走」で成果が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種目別では「握力」や「立ち幅跳び」「ボール投げ」といった種目で課題が見られる。また、小学校の低学年で低い結果となっている。

心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスなどの取組により、小学生は中学校生活を体験することができ、進学に対する不安を解消できたという感想が多く挙げられた。 ・小中連携教育の様々な取組を通して、中学生が小学生に関わることで、自己肯定感、自己有用感の高まりが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校ともに落ち着いた教育環境となっているが、不登校の出現率は増加傾向にあり、以前として課題の1つとなっている。 ・今後も自己肯定感や自己有用感を高め、児童・生徒一人ひとりが様々な場で自己実現できるようにしていくことが求められる。
------	---	--

3 今後の保幼小中連携教育に向けて

- これまでの小中連携教育で推進してきた「オープンキャンパス」「乗り入れ指導」「小中連携教育協議会」などの取組は一定の成果が見られた。今後も継続的に取り組むとともに適時、内容や方法の見直しと改善を図っていく。
- 学びの連続性を見通した取組については、各中学校区において、生活規律や学習習慣をはじめ、キャリア教育、情報モラル教育等の観点からも取り組んできたが、各教科等の教育課程については、十分ではない状況である。今後は、教育課程、カリキュラムにおいても連携を図り、児童・生徒の力を育てていくことが求められる。
- 小中連携教育における「学力向上」「体力向上」「心の教育」の3つの柱に「特別支援教育」加え、一人ひとりの指導に重点を置き、異なる校種等の教職員が協働して、学校間等の指導の共有や学びの連続性を目指した研究・実践を深めていく。

4 今後の予定

3月 定例校長会 周知

中野区小中連携教育7年間のまとめ

令和2年3月
中野区教育委員会

目 次

I	中野区が目指してきた小中連携教育・・・・・・・・・・	1
II	これまでの7年間の取組と評価・・・・・・・・・・	2
	1 オープンキャンパス	
	2 乗り入れ指導	
	3 小中連携教育協議会	
	4 中学校区独自の取組	
III	学校教育向上事業研究指定校の実践・・・・・・・・・・	6
IV	令和元年度の各中学校区の取組・・・・・・・・・・	10
V	7年間の成果と課題・・・・・・・・・・	31

I 中野区が目指してきた小中連携教育

平成25年度より、中野区内全ての小・中学校において、小中連携教育の取組を開始しました。これらは、「中野区における小中連携教育のあり方」(平成25年3月 中野区教育委員会)及び「中野区小中連携教育検討委員会報告書(中間)」(平成26年5月 中野区教育委員会)に基づき、中野区教育ビジョン(第2次)の「目指す人間像」を育むため、児童生徒の学習指導上、生徒指導上の諸課題を、校種を超えた複数の学校間で連携して解決すること、特に中学校に進学する小学生に安心感や憧れの気持ちを育むことにより、中学校進学時の学校生活の急激な変化によって起こる学校不適応を防止し、円滑な接続を図ることなどを目的として取り組んできました。

計画の骨子は、「学力向上」「体力向上」「心の教育」の3つを柱とし、平成25年度から平成31年度までの7年間で、移行期、充実期、発展期の3期に区切り、段階的に取り組んできました。具体的取組として、まずは中学校区ごとに小中学校の子どもと教員が互いの理解を深めるため、小学校の子どもたちが中学校を見学・体験する「オープンキャンパス」、小・中学校の教員が子どもたちの課題や解決方法を協議する「小中連携教育協議会」、小・中学校の教員が相互に授業に関わる「乗り入れ指導」を導入し、全中学校区共通の取組として進めてきました。また、小・中学校9年間のカリキュラムが系統的なものになることを目指し、充実期の3年間には合同行事や連携型年間指導計画などにも中学校区の実態に合わせて取り組んできました。

中野区教育ビジョン(第2次)

基本理念

一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む

目指す人間像

自らの健康や
体力増進を図
る人

自ら考え、創
造工夫し課題
を解決する人

コミュニケーション能
力を高め、豊かな人間
関係をつくる人

生命を尊重し、やさしさや思いやり
の心をもつ人

中野区における小中連携教育のねらい

- 小学校の児童に、中学校進学への安心感や、中学校への憧れの気持ちをもたせる。
- 中学校の生徒に、中学生になった自覚をもたせたり、中学生としての自己有用感を高めさせたりする。
- 小・中学校の教員が相互に指導に関わることにより、授業力を向上させるとともに、学びの連続性のある教育課程を展開し、児童・生徒の学力向上、体力向上、心の教育の充実を図る。
- 学校と家庭・地域が小中連携教育のねらいについて共通理解を図り、連携しながら学習規律及び学習習慣の定着を図ることで、児童・生徒の学力向上、体力向上、心の教育の充実を図る。

「目指す人間像」を育む3つの柱

体力向上

学力向上

心の教育

Ⅱ これまでの7年間の取組と評価

1 オープンキャンパス

オープンキャンパスは、以下のねらいで平成25年度から実施してきました。小学校6年生が年に3回中学校を訪問し、授業や部活動の見学、体験を行いました。また、3回目は2月の土曜日に設定し、自分が実際に進学する中学校に、保護者と共に説明会に参加して、校内的見学や体験を行いました。

【ねらい】

- 小学校の児童に、中学校の様子を見たり体験したりさせることで、進学への安心感や、中学校への憧れの気持ちをもたせる。
- 中学校の生徒に、小学生に対して中学校生活の様子を紹介させるなどすることで、中学生になった自覚をもたせたり、中学生としてのあり方を考えさせたりする。
- 保護者や地域に、小・中学生の様子や小中連携教育の取組を示すことで、学校と連携する意識を高める。

【成果】

- 中学校生活の様子を具体的に想像することができ、6年生児童の不安の解消につながった。
- 中学校の生徒の話し方や姿勢、挨拶が素晴らしく、児童の手本になった。
- 中学校の教員が、6年生の児童の様子を知ることができた。

【課題】

- 学校ごとに1日の時程や中学校までの距離が異なるため、開始時刻や終了時刻を合わせるのが難しかった。
- オープンキャンパスの日程が中間テストの直前で部活動体験が計画できなかった。
- 部活動体験は当日の天候に左右され、今年は雨で中止となり残念だった。

【今後の保幼小中連携教育に向けて】

オープンキャンパスは、中1ギャップの解消や中学生に自己有用感をもたせることに効果が出ている。小中連携教育の取組の当初は連携校のみにしか参加できなかったが、平成28年度からは住所のある進学先の中学校にも参加できるように配慮してきた。日程については、委嘱委員会や校長会と調整しながら決定していく。

2 乗り入れ指導

乗り入れ指導は以下のねらいで、平成27年度から全ての小・中学校で取り組みました。小学校には中学校の教員が、中学校には小学校の教員が指導に加わることで、児童・生徒の確実な学力向上を目指してきました。

【教員のねらい】

- 小・中学校の教員が相互に授業に関わることにより、教員の授業力向上を図る。
- 小学校教員が中学校における授業に関わることにより、生徒に対する基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- 中学校教員が小学校における授業に関わることにより、専門性を活かした授業を展開し、児童の学習意欲を向上させる。

【児童・生徒のねらい】

- 小・中学校の教員が相互に授業に関わることにより、児童・生徒の学力向上を図るとともに、学習や生活への意欲を高める。
- 児童は、中学校教員が小学校における授業に関わることにより、専門性を活かした授業に触れ学習意欲を向上させるとともに、中学校への憧れの気持ちをもつ。
- 生徒は、小学校教員が中学校における授業に関わることにより、基礎的・基本的な学習内容を定着させるとともに、中学生としての自信を高める。

【成果】

- 乗り入れ指導を通して、学習に関する課題を教職員が共通認識することができ、日々の指導に役立った。
- 中学校の教員による乗り入れ指導で、小学生は中学校の教員の専門性の高い授業を体験することで、学習に対する意欲が高まった。

【課題】

- 事前の連絡を円滑に行うことができず、指導内容について十分に打ち合わせを行うことができなかった。
- 教員の意識に差が見られ、もう一度、乗り入れ指導の意義を確認する必要がある。
- 小学校の教員を効果的に活用できるように学習指導案の検討が必要である。

【今後の保幼小中連携教育に向けて】

児童にとっては中学校の授業に憧れをもつよい機会となっていた。中学校への小学校教員への関わり方については、学力向上委員会でモデル授業により提案もしているが、今後も工夫が必要である。また、教員同士の打ち合わせ時間等、負担が多いという意見を受け、乗り入れ指導の回数については減らしてきた。今後もその内容・回数については検討していく。

3 小中連携教育協議会

小中連携教育協議会は以下のねらいで、平成25年度より実施しています。小・中学校の教員が、年に2回程度集まり、各中学校区内で共通の課題を話し合ったり、テーマに基づいた協議を行ったり、授業を見合ったりすることで、9年間を見通した指導の充実を図ってきました。小・中学校の連携とともに、小学校間の連携の重要性も明らかになってきました。

【ねらい】

- 9年間の学びの連続性を構築するため、小・中学校における学習内容、生活指導、児童・生徒の成長の様子等から課題を焦点化し、共通理解を図る。
- 各中学校区における課題を解決するため、小中連携教育の具体的な取組を、小中連携教育の計画を踏まえて実施するとともに、取組の進捗状況の確認を行う。

【成果】

- 児童・生徒の課題を教職員同士で共通認識することができ、日々の教科指導に役立った。
- 公開授業の教科を1つに絞って行うことで、協議の内容を深めることができた。
- 7年間の取組の中で、小学校、中学校の教員の連携が深まってきたため、協議会での話し合いが活発になってきた。

【課題】

- 毎年、同じような協議会になり、話し合いが形骸化している。話し合いを共有したり、日々の教育実践に生かす必要がある。
- 家庭学習の進め方について共有し、中学校区として連携を図っていきたい。
- 各教科の15年間を見通した指導内容や生活指導の基本的な内容の共通理解を図る必要がある。

【今後の保幼小中連携教育に向けて】

取組の当初は、様々な開催方法が見られたが、現在は中学校区の教員が一斉に集まって開催している。開催日について学校間で調整をすることが困難という意見があったため、平成29年度からは教育委員会が日程を指定している。教職員が学区の課題について共通認識できたという成果が多い中、話し合いが形骸化している、などの意見もあった。今後、分科会のテーマや人数、話し合いで共有したものについて日々の教育実践に生かす方法などを工夫することが課題である。

4 中学校区独自の取組

平成29年度から発展期に入り、小・中学校区の整合性が図られた後の状況を見通した取組を工夫してきました。この発展期には新たな取組として、「中野の100冊」や、「合同行事」「小6一部教科担任制」「小中連携授業改善プラン・年間指導計画の作成」など、各中学校区で独自の取組が展開されました。

【成果】

- 「中野の100冊」を用いた中学校のビブリオバトルを見学した。中学生の姿を見て憧れをもつとともに、自分も読んでみたいと読書への関心が高まった。
- 合唱コンクールの見学では、中学生の堂々とした姿に刺激を受け、3年後の姿を思い描くことができた。
- 小学校の運動会への中学生ボランティアが定着してきた。郷土愛を育むことにもつながり、地域にもよい効果が出ている。
- 小学校で中間試験を実施した。児童が中学校の定期考査のイメージをつかむことができた。
- 夏季休業中における中学生による小学生への補習教室は、参加した生徒の自己有用感が高まった。
- 教科担任制に取り組むことで、児童が中学校の授業形態を実感することができた。

【課題】

- 合同行事を設定しようとしても、学校により時程が異なるため設定が難しい。
- よい取組を計画しようとしても、授業時数の確保が難しい。
- 今後の連携のあり方について、話し合う時間が確保できていない。

【今後の保幼小中連携教育に向けて】

合唱コンクールや、運動会のボランティア、ミニ先生、合同避難訓練など、児童と生徒が直接関わる行事が増え、児童や生徒にとって成果のある取組が充実してきている。

今後の保幼小中連携教育では、園児や中学生との合同行事や、同じ中学校区内の小学生同士の連携が期待される。

Ⅲ 学校教育向上事業研究指定校の実践

中野区教育委員会では、小中連携教育を一層推進するため、毎年、中学校区ごとの全ての小中学校を学校教育向上事業の研究指定校として指定し、その2年間にわたる取組や研究の成果を、区内全小・中学校に還元してきました。

研究に取り組んだ学校は以下のとおりです。

年度	中学校	小学校
平成25・26年度	第七中学校	江古田小学校・江原小学校
平成26・27年度	第十中学校	塔山小学校・谷戸小学校
平成27・28年度	北中野中学校	武蔵台小学校・上鷺宮小学校
平成28・29年度	緑野中学校	北原小学校・緑野小学校
平成29・30年度	中野中学校	桃花小学校・平和の森小学校
平成31・令和元年度	第八中学校	鷺宮小学校・西中野小学校

以下、それぞれの中学校区の実践を紹介いたします。

平成25・26年度

第七中学校・江古田小学校・江原小学校

【研究主題】

「小中連携を通じた魅力ある学校づくり」

【研究の成果】

3校の特色やこれまでの研究を生かして、「学習分科会」「生活分科会」「キャリア分科会」の3つの分科会を設けました。

成果として、3校の特色を生かし、共通の研究に取り組んだこと、9年間を見通した系統性のある指導計画を作成したこと、小学校間の連携教育を推進したこと等が挙げられ、今後の中野区の小中連携教育推進の方向性を示しました。



平成26・27年度

第十中学校・塔山小学校・谷戸小学校

【研究主題】

「地域の子どもを育む小中連携教育の実践」

【研究の成果】

3校共通の「学習のきまり」「学習指導ハンドブック」を作成し、いわゆる「中1ギャップ」の払拭に努めたことや、小学校から中学校への円滑な接続を図る教育活動を展開してきたことが挙げられます。また、9年間の学習内容の系統図を作成し、異校種間で学習内容を把握しながら指導の充実を図り、さらには、道徳の時間で使用する教材・教具を開発し、学校間で共有して授業で活用する等の取組も積み重ねてきました。



平成27・28年度

北中野中学校・武蔵台小学校・上鷺宮小学校

【研究主題】

「自ら考え、表現できる児童・生徒の育成」

【研究の内容】

3校の特色や研究を生かして、「校長分科会」「数理分科会」「道徳分科会」「規律分科会」「交流分科会」の5つの分科会を設けました。成果として、学習の流れやノート指導の仕方を共有し、小・中学校間の単元学習内容のつながりを意識した授業づくりができました。

さらに、3校で連携した「生活のきまり」をつくり、安心して中学校へ進学できる環境を整えました。



平成28・29年度

緑野中学校・北原小学校・緑野小学校

【研究主題】

「未来社会を見据えた『未来の学び』の創造」

【研究の内容】

未来社会は複雑で予測困難な時代となります。このような時代において、子どもたちは「主体的」に向き合い、多様な他者と共に関わり合い「対話的」に解決していく資質・能力を身に付けることが求められています。

この資質・能力の育成に向けて「キャリア教育」の視点から「ICT学校図書館活用型授業」「対話的協議型授業」「外部人材活用型授業」の実践を行い、未来社会を見据えた「未来の学び」を提案しました。



平成29・30年度

中野中学校・桃花小学校・平和の森小学校

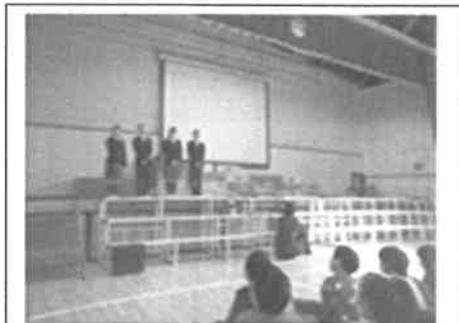
【研究主題】

「主体的に学び、他者と協働しながら
よりよい社会を創造する力の育成
～キャリア教育の充実を通して～」

【研究の内容】

「健康・安全分科会」「言語力向上分科会」
「特活・総合分科会」「道徳分科会」の4分科会
科会を設けて研究を行いました。

小学校と中学校が連携し「SNSルール」を
作成したり、中学生が小学校で職場体験を
行ったり、小学生の授業に中学生が関わって
いったりと、児童と生徒の交流を深めてきました。



平成30・令和元年度

第八中学校・鷺宮小学校・西中野小学校

【研究主題】

「自己肯定感を高める児童・生徒の育成の工夫
～小中連携教育を通して～」

【研究の内容】

「校内環境ユニバーサルデザイン化連携」
「心の教育連携」「地域連携」の3つの分科会を
立ち上げ、「自分にはよいところがある」と自信を
もって言える児童・生徒の育成を目指しました。

小・中学生が一緒になって、いじめ防止の取組を
話し合ったり、防災体験学習を活発に行ったりす
るとともに、他校種の先生による乗り入れ指導に
より、対話活動が活性化されたり、個々の考えが
より深まったりする場面が見られました。



【今後の保幼小中連携教育に向けて】

これまで6つの中学校区で研究の成果を区内の小・中学校に還元してき
ました。学校教育向上事業の研究指定は当初は全ての中学校区で実施する
計画でした。一方、学校再編や校舎の移転など控え、2年間の研究への十
分な取り組みが実質的に困難となるため、保幼小中連携教育を推進する5
年間は、保幼小中連携教育研修会にて、それぞれの中学校区の実践方向を
行うこととしました。

今後も各中学校区で課題を検討し取り組むことで、子どもたちの教育が
一層充実していくことを期待します。

IV 令和元年度の各中学校区の取組

(1) 第二中学校区の取組

第二中学校・中野本郷小学校・中野第一小学校

小中連携教育協議会

第1回を5月15日(水)に中野第一小学校にて、また第2回を12月18日(水)に第二中学校にて、実施した。

いずれも各学校による授業公開が行われた後、第1回は生活指導・学習指導・特別支援教育・今後の小中連携教育、第2回はICT機器の活用・外国語教育・特別支援教育・現中学1年生にかかわる情報交換という内容で分科会協議を行った。

児童生徒の実態についての情報交換により地域性に対する理解を深めたり、第二中学校の取組について知ることで進学へ向けて学習指導や生活指導における、各小学校の課題を明確にしたりすることができた。



オープンキャンパス

第1回は6月7日(金)で授業体験と部活動見学を、また第2回は9月24日(火)で生徒会による学校説明と部活動体験を、いずれも第二中学校にて実施した。

授業体験では、補助の中学生と共に中学校ならではの専門性の高い学習に触れることで、学びに対する意欲を高める小学生の姿を多く見ることができた。

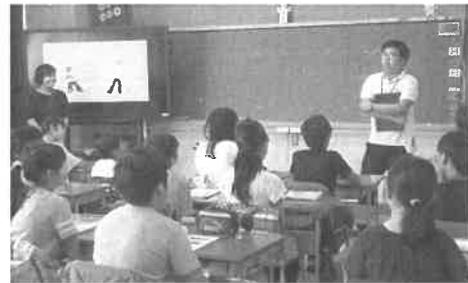
また部活動体験では、第1回で見学した中から興味をもった部活動を実際に体験することで、中学校生活へ対する期待感を高めることができた。

なお第3回は2月15日(土)に実施予定で、中学校生活に対する理解と関心を高め、児童がスムーズに適應できるようにすることを目的に、学校見学と入学準備説明会が計画されている。

乗り入れ指導

各小学校から第二中学校への乗り入れは7月に英語、9月に数学で実施した。いずれも学びの連続性が特に重視されている教科であり、中学校での実際の取組を小学校の教員が知ることで、小学校で授業改善を図るための大きな材料とすることができた。

また第二中学校から各小学校への乗り入れは、7月と9月に体育、外国語で実施した。中学校の教員が小学校の授業の様子を知ることで学びの連続性につながると共に、それを踏まえた指導を小学生が受けることでオープンキャンパスと同様に児童の学びに対する意欲を高めることができた。



発展期の新しい取組

今年度は新たな合同行事として、小中3校合同による引取下校訓練を実施した。実際に大きな災害が起きた際には、どこかの学校のみで引取が行われるわけではないため、特に兄弟関係を意識して合同で訓練をしておく必要があるという考えによるものである。

この他、これまでも実施してきた小学生による第二中学校運動会への参加や、中学生による各小学校運動会の運営補助・夏期休業中の補充学習ボランティアへの参加、また各種学芸行事への作品展示などを通して、教員同士の交流のみならず、児童生徒同士の交流を通じた連携教育を進めている。

7年間の小中連携教育を通して

本校区では、各小学校の学区域がそのまま第二中学校の学区となっており、私立国立へ進学する児童を除き、ほぼ全員が第二中学校へと進学する。今年度は旧桃園小学校と旧向台小学校が統合して中野第一小学校となり、小学校2校と中学校1校による密な小中連携を進める状況が整った。この環境を生かし、発展期の更なる取組を検討していきたい。

(2) 第四中学区の取組

第四中学校・啓明小学校・美鳩小学校

小中連携教育協議会

○第1回 5月15日(水) 第四中学校にて

内 容 授業参観、乗り入れ授業、分科会、全体会

①国語、②数学、③理科、④社会、⑤体育、⑥音楽・技術
⑦英語、⑧特別支援教育の8分科会に分かれて協議を行い、
全体会で報告しました。

○第2回 12月18日(水) 啓明小学校にて

内 容 授業参観、乗り入れ指導、分科会、研究実践報告会

全学級が授業公開を行い、その後①学力向上②体力向上
③生活指導④特別支援教育の4分科会を8グループに分け、
意見を交換しました。その後行われた報告会では、情報交換
した内容や提言を発表しました。連携する小・中学校で、授業
だけではなく、様々な取組の授業改善を行うための基礎的な
考え方を共有できました。



オープンキャンパス

○第1回 オープンキャンパス〇

日 時 6月7日(金) 13:30~15:30

内 容 中学校の生徒会役員が、生徒会や各種委員会
活動の様子等を小学生に紹介しました。また、
小学生は5時間目の授業の様子を見学し、その
後に部活動の様子を見学しました。

○第2回 オープンキャンパス〇

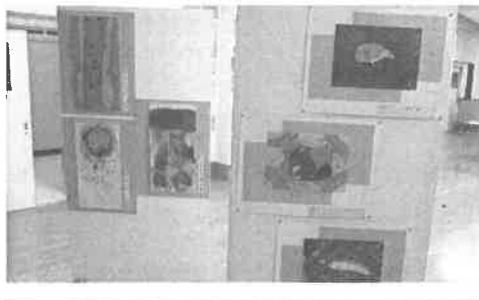
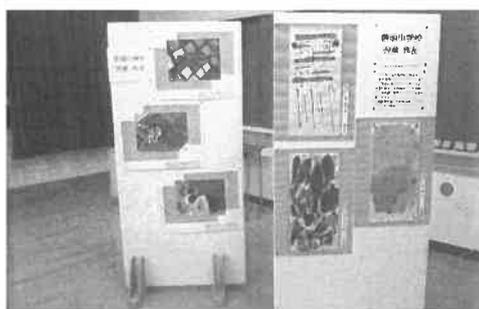
日 時 9月24日(火) 13:30~15:30

内 容 小学生が、中学校の先生による50分間の授
業を体験しました。また、中学校の生徒と一緒
に部活動も体験しました。

乗り入れ指導

中小乗り入れ指導を計10回、小中乗り入れ指導を計7回実施し、国語・数学・社会・理科・体育・英語・技術・音楽・道徳の9教科で行われました。

小学校で行った道徳の学習では、自由と責任・規律について授業を行い、そこでは中学校の教員による教師の説話も行いました。担任以外の教師から説話を聞くことで、児童にとって興味深い授業となりました。また、社会の歴史学習では、様々な資料を中学校の教員が準備し、それを夢中になって児童が学びに生かしていました。それ以外の授業でも、「中学校の先生が教えてくれて、中学の授業が楽しみになった。」という感想が多く聞かれました。



発展期の新しい取組

○小学生の作品を中学校の作品展へ○

1月10日(金)・11日(土)に中学校で行われた作品展で両小学校の代表児童の作品を展示しました。当日は、多くの保護者や地域の方々にも鑑賞していただきました。

○「中野の100冊」を小学生に紹介○

第1回オープンキャンパスの際に、中学校の図書館指導員が「中野の100冊」のうちの何冊かを小学生に紹介しました。

○運動会ボランティアとして小学校へ○

中学生が小学校の運動会で用具係などのボランティア活動を行いました。

7年間の小中連携教育を通して

7年間の小中連携教育の積み重ねをもとに、乗り入れ指導、オープンキャンパス、小中連携教育協議会のいずれでも活発に授業や意見交換が行われました。協議会では、①各教科等について②学校生活に関する領域についてをテーマに全2回の協議会を開催しました。

小中学校9年間を通しての授業づくりや授業改善について協議を行うことができたのは大きな成果の一つでした。

(3) 第五中学校区の取組

第五中学校・上高田小学校 新井小学校・白桜小学校

小中連携教育協議会

- ① 《 5月 15日 (水)》(於 第五中学校)
- ② 《12月 18日 (水)》(於 上高田小学校)



本中学校区では、数年来の蓄積を発展させ、学力向上・道徳教育・生活指導・特別支援教育の4つの分科会グループを構成し、年間を通じて継続的に指導上の課題と方策の協議を進めてきました。事前に打合せをもちつつ、小中連携教育協議会当日には公開授業にて児童・生徒の様子を観察したのち、協議会にて情報や意見の交換を行います。課題の共有や分析、解決への取組において、小中の共通理解を深めています。昨年度から教科指導を学力向上としてまとめ、道徳教育を分科会に加えました。児童・生徒の9年間の変化や成長を4つの視点から捉えるための、基礎となる組織です。教科においては、指導内容の関連や連続性、さらに児童・生徒の実態を考慮し、学力向上に向けた改善案を協議します。乗り入れ指導において実践を重ね、9年間の学びの連続性の構築を図っています。生活指導及び特別支援教育では、児童・生徒の成長の様子から課題を焦点化し、共通理解を図っています。道徳教育では日常の授業実践の工夫のほかに、評価の方法についても実践的な情報共有を図ることができました。



オープンキャンパス

- ① 《 6月 7日 (金)》(於 第五中学校)
【 5校時 授業見学 】【 6校時 部活動見学 】
- ② 《 9月 24日 (火)》(於 第五中学校)
【 5校時 授業体験 】【 6校時 部活動体験 】
- ③ 《 2月 15日 (土)》(於 第五中学校)
【 1・2校時 授業公開 】
【 3校時 児童・保護者対象 学校説明会 】
【 放課後(20分) 児童対象 生徒会学校紹介 】
【 放課後(20分) 保護者対象 アレルギー対応 】

児童・保護者にとって、中学校の様子を見たり体験をしたりする機会は、進学への安心感や憧れの気持ちへとつながります。

2月のオープンキャンパスでは、生徒会役員による中学校生活のプレゼンテーションを予定しています。



乗り入れ指導



- ① 《4月15日～4月26日》乗り入れ指導・学習指導案検討
- ② 《5月10日(金)》【6校時 新井小学校 → 第五中学校 1学年】社会・理科・道徳
- ③ 《5月13日(月)》【6校時 上高田・白桜小学校 → 第五中学校 1学年】道徳・社会・理科
- ④ 《5月15日(水)》【5校時 上高田・白桜小学校 → 第五中学校 1学年】数学・英語
- ⑤⑥ 《11月18日(月)19日(火)》【5校時 第五中→新井小学校6学年】道徳・体育
- ⑦⑧ 《11月18日(月)12月18日(水)》【5校時 第五中→上高田小学校6学年】理科・数学
- ⑨ 《11月19日(火)》【5・6校時 第五中学校→白桜小学校 6学年】社会

担当教員による事前の学級指導案検討により、生徒にとっての小学校からの学びの連続性を、児童にとっての教科の専門性を、小・中学校教員がそれぞれに感じることができました。異校種の教材研究は、双方にとって貴重な学びとなります。



①合同行事 学習発表会の開催



発展期の新しい取組

(五中、上高田小、新井小)《1月12日(土)》
五中学習発表会にて小学校児童作品を展示しました。
案内ポスターを小学校でも掲示し、地域の小学生の家庭

が参加できる機会を作りました。

②中野の100冊の啓発(五中、白桜小)

学校図書館指導員の協力のもと、地域図書館の団体貸出を利用して学校図書館に該当作品を集め、6月の校内読書週間の取組とともに展示・貸し出しを行い、小中のつながりのある啓発活動を行いました。



③補充学習(五中、上高田小、新井小、白桜小)

夏休みの補充学習教室に、小学校の先生に教科指導の補助に入ってもらいました。生徒一人ひとりの習熟度に柔軟に対応して指導することができました。



7年間の小中連携教育を通して

五中学校区では、従来から地域や保護者の協力をいただき、児童による中学校の授業見学や、部活動体験を実施してきた実績があります。今年度は道徳教育でも、授業展開や評価など各校の実践をもとに成果を共有することができました。今後も児童・生徒の育成と教職員間の相互理解を進め、創意工夫を生かした連携を進めていきます。



(4) 第七中学校区の取組

第七中学校・江古田小学校・江原小学校

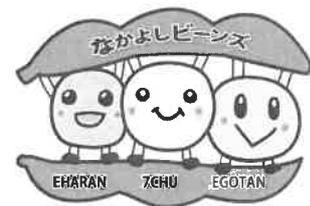
小中連携教育協議会

〇5/16 第1回(第七中学校会場)

中学校の通常学級及び特別支援学級の「道徳」授業を公開し、学年ごとに分科会を行い「道徳」の指導法・評価方法について協議を進めた。

〇12/20 第2回(江古田小学校会場)

「人権尊重教育」を視点とした授業研究において活発な意見交換が行われた。小中連携を見据えた「人権尊重教育」を推進していくことで、自己肯定感を高め、互いを認め合い、思いやりをもって自己表現していくことできる児童・生徒の育成を目指す方向性を見いだすことができた。



オープンキャンパス



〇6/7 第1回

児童の中学校授業見学 部活動見学 中1ギャップの解消

中学校というものが身近な存在であることを自覚させ、中学校生活への不安を払拭させる一助となった。

〇9/28 第2回

児童対象の授業体験 部活動体験 中1ギャップの解消

授業や部活動を体験することによって中学校生活やその学習についての不安を無くし、憧れや期待をもたせるよう務めた。

〇2/15 第3回

授業公開 児童・保護者対象学校説明会

来年度七中に入学者の児童及びその保護者対象の学校説明会を実施し、具体的な中学校生活をイメージして入学への準備をスムーズに行えるようにした。

乗り入れ指導

○小学校から中学校へ

5/10～5/17までを小学校からの乗り入れ期間として、中1ギャップの解消を目的に小学校2校の教員による乗り入れ指導を実施した。今年度小学校に異動してきた教員も七中の授業を見学し、七中を知ってもらおうよい機会ともなった。

○中学校から小学校へ

9、11月に実施される中学校での定期考査期間を利用して中学校教員による小学校への乗り入れ指導を実施した。(体育、音楽、英語、算数)中学校の専門性のある授業に意欲・関心をもつとともに、中学での授業への不安を減らすことができた。



発展期の新しい取組



○七中合唱コンクールの2・3学年優秀クラスが小学校へ赴き、合唱を披露した。児童は中学生が歌う混声四部合唱を聴き、小学校とは違った低音から高音までの幅広い音域の合唱を味わった。合唱することの醍醐味や素晴らしさを児童・生徒が共感することができた。

○七中では「中野の100冊」「七中の100冊」を柱に朝の読書活動と図書委員会主催のビブリオバトルを行っている。今年度、小学校児童もビブリオバトルに参加し、小学校2校にその取組の様子を収めたDVDを配布した。このような活動を継続させ、9年間を見通した読書習慣を確立させていきたい。

○小中合同連携カレンダーを作成し、全校児童・生徒へ配布し、ホームページへも掲載した。

7年間の小中連携教育を通して

「道徳」の授業研究において、昨年度より先行実施している小学校と意見交換することで、互いの情報を基に、指導のあり方や評価方法について、理解を深めることができた。「人権尊重教育」を視点とした授業研究においては、活発な意見交換が行われた。小中連携を見据えた「人権尊重教育」を推進していくことで、自己肯定感を高め、互いを認め合い、思いやりをもって自己表現していくことができる児童・生徒の育成を目指すための方向性を見出すことができた。今まで実施してきた連携教育で有効性の高いものを引き続き実施していき、安定的に幼(保)連携も含めた小中連携教育を実施していくことが大切であると考えている。

(5) 第八中学校区の取組

第八中学校・鷺宮小学校・西中野小学校

小中連携教育協議会

7月9日(火)

小中連携教育合同研修会(検証授業)

5校時：西中野小学校 道徳・理科

6校時：指導講評・分科会協議



9月4日(水)

小中連携教育合同研修会(検証授業)

5校時：第八中学校 理科・道徳・特別活動

6校時：指導講評・分科会協議

10月4日(金)

小中連携教育合同研修会(検証授業)

5校時：鷺宮小学校 保健体育・道徳・総合

6校時：指導講評・分科会協議

- ・研究発表に向けて、3校で検証授業を行いました。各分科会の小中連携の視点を確認し、授業の改善や3校の共通理解を図りました。



12月18日(水)

小中連携教育協議会①

5校時：研究発表のスライド確認

6校時：校内掲示物の確認・分科会協議

- ・研究協議会で提示するスライドを全員で確認をしました。その後、会場校の教室内外の環境を整備し、各分科会に分かれて、最終協議を行いました。特に、乗り入れの在り方を3分科会共通の認識を図りました。

1月23日(木)

小中連携教育協議会②

6校時：研究発表リハーサル・各担当確認

印刷物の袋詰め

オープンキャンパス



6月7日(金)

場 所：北中野中学校、第八中学校

5校時：希望する授業の参観（授業体験）をしました。

6校時：部活動紹介を見ました。

9月24日(火)

場 所：北中野中学校、第八中学校

5校時：希望の授業を体験しました。

6校時：部活動体験をしました。

・児童たちが授業見学や部活紹介・体験を通して、中学校の様子を詳しく知る事ができました。

乗り入れ指導

6月8日(土)

中学校教員が国語のT2として児童の補助にあたりました。

7月9日(火)

中学校教員が理科のT2として児童の補助にあたり、そして中学校への繋がりを話しました。

9月4日(水)

小学校教員が道徳のT2として生徒の補助にあたりました。



発展期の新しい取組



①校内環境と授業のユニバーサルデザイン化

・教室内外の環境整備や「できた・分かった」と児童が思える授業づくりを展開しました。

②いじめ防止の3校合同授業の取組

・ゲストティーチャーとして劇団を招き、3校合同で、いじめ防止に関する授業を行いました。

③3校合同実施の地域・校内清掃や引き取り訓練

・3校で同時期に清掃や引き取り訓練を行いました。

7年間の小中連携教育を通して

- ・3校合同で連携授業をすることができました。
- ・校内環境を3校で揃えることができました。
- ・地域・校内清掃、引き取り訓練の日程を決め、実施することができました。

(6) 北中野中学校区の取組

北中野中学校・武蔵台小学校・上鷺宮小学校

小中連携教育協議会

令和元年5月15日に北中野中にて、12月18日に武蔵台小にて、2回の小中連携教育協議会を実施した。今年度は、これまでの研究の成果を踏まえて、これからも継続的に小中の連携を推進できる取組の構築を行うことを目標とした。近隣の小・中学校で連続性のある生活指導や学習指導を行えるよう、5月の協議会では各教科の分科会に分かれて細かく情報交換を行い、今後の指導の方向性を検討した。その中でも、英語の授業の実践を求める小学校教員の声が多く、中学校教員による英語の授業を各小学校で2回ずつ行った。12月の協議会では生活指導及び教務の分科会に分かれ、今後の連携強化について話し合った。



オープンキャンパス

令和元年6月7日、9月24日、令和2年2月15日の3回、オープンキャンパスを行った。昨年度から武蔵台小・上鷺宮小・西中野小3校の児童がオープンキャンパスに参加した。

第1回のオープンキャンパスでは、小学生が中学校の10講座の中から興味のある授業を選び、中学校の授業を受け、部活動紹介を受け、第2回のオープンキャンパスでは中学校の部活動に小学生も参加し、中学校の生活を体験した。

北中野中生徒会本部役員や各部活動の部員が中心となって、小学生に北中野中の紹介を行った。中学生から説明を受けることで、小学生も楽しみながら北中野中での生活をイメージすることができた。

乗り入れ指導

6月～7月に、北中野中・武蔵台小・上鷲宮小・西中野小の教員が、それぞれ乗り入れ指導を行い、小中の教員による協力、連携指導を実践した。中学校教員の乗り入れ授業では英語の授業を行い、中学校の先生に英語を教わるという経験を児童にもたせることができた。



発展期の新しい取組

小中連携推進教育発展期の新しい取組として、今年度は9月2日（月）に北中野中学校と上鷲宮小学校の合同引き取り訓練を行った。今後は3校での取り組みを目指し、災害時の対応強化に努めていく。また、昨年度同様7月には、北中野中ラグビー部 OB 会主催のラグビーフェスティバルや北中花火大会を開催し多くの中学生、小学生が参加した。

また、3年目となる北中野中の合唱コンクールのリハーサル見学に今年度より上鷲宮小学校も参加し、多くの児童が中学校での行事に向けた取組を実感できる機会となった。

7年間の小中連携教育を通して

北中野中・武蔵台小・上鷲宮小の3校は、連携活動研究発表後も連携強化に向けて教員間の連携強化を目指して取り組み、連携担当も各学校での連携教育への働きかけを促進できるよう努めた。今後は連携教育行事前の打ち合わせや意見交換の場を持ち、9年間の連続した学びの場として一貫性のある教育活動を目指し、今後も更なる連携強化を目指す。

(7) 緑野中学校区の取組

緑野中学校・北原小学校・緑野小学校・平和の森小学校

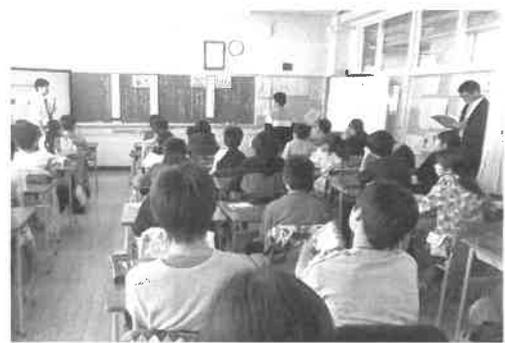
小中連携教育協議会

緑野中学校校区では、小中連携教育協議会において
①小中が連携した道徳科の指導のあり方、②新学習指導要領が目指す学びをテーマに掲げ、小中連携による研究授業及び研究協議、さらに講師を招いての研修を行いました。小・中学校それぞれの課題を再確認し、より良い連携を継続するために共通理解を図りました。



- <第1回> 令和元年5月15日(水) 緑野中学校
1 緑野中学校1学年全組道徳授業公開：5校時
2 研究協議
3 講演会：「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて

- <第2回> 令和元年12月18日(水) 緑野小学校
1 緑野小学校全学年「道徳」授業公開：5校時
2 研究協議
3 講演会：小中連携における道徳教育の推進



オープンキャンパス



中学校生活をよく知ってもらうために、中学校の授業参観、体験授業、生徒会による学校説明、部活動見学及び体験等を行いました。部活動体験は、オープンキャンパスだけでは、参加できない部活動もあったため、日頃から児童が希望する部活動に体験できるように工夫しました。多くの児童がいろいろな部活動を体験することができました。

- <第1回> 令和元年 6月 7日(金) 緑野中学校会場(6年生対象)
1 授業見学(全学級) 2 生徒会による学校説明 3 部活動見学

- <第2回> 令和元年 9月24日(火) 緑野中学校会場(6年生対象)
1 学校説明 2 授業体験(8教科12クラス) 3 部活動体験

- <第3回> 令和2年 2月15日(土) 緑野中学校会場(新入生対象)
1 学校説明(生徒・保護者対象) 2 作品展見学 3 アトラクション

乗り入れ指導

昨年度同様、英語・数学・理科・保健体育等の教員が乗り入れ授業を行いました。また、日頃より指導方法や教材について、情報交換を行えるように工夫しました。

その成果もあり、小・中学校の教員が相互の授業に関心を持ち、それぞれの授業改善につながりました。

＜中学校教員による小学校への乗り入れ指導＞

緑野小：算数（緑野中：数学科教員）

体育（緑野中：保健体育科教員）

北原小：外国語活動（緑野中：英語科教員）

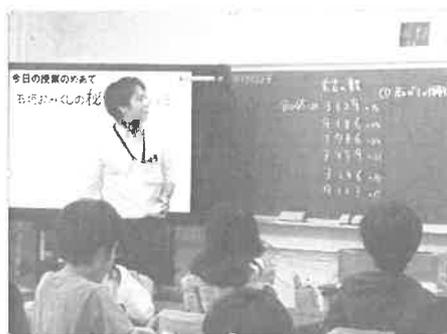
理科（緑野中：理科教員）

体育（緑野中：保健体育科教員）

平和の森小：外国語活動（緑野中：英語科教員）

＜小学校教員による中学校への乗り入れ指導＞

緑野中：道徳（北原小、緑野小、平和の森小）



発展期の新しい取組

昨年度より新たな合同行事として小中連携合同引き渡し訓練を実施しています。また、平和の森小学校の運動会に緑野中の生徒がボランティアとして参加しました。

北原小鼓笛隊、平和の森小吹奏楽団、緑野小金管バンドと緑野中吹奏楽部による野方祭りでの演奏、さらには小中合同での地域ボランティア活動への参加も、これまでの取組を、充実させることができました。



7年間の小中連携教育を通して

平成25年度より2年間かけて、3校共通の授業規律リーフレット「学びをつなぐ」を作成し実践しました。平成27年度には北原小と緑野小が、平成30年度にも緑野中と北原小が、それぞれ研究発表会を行い、それに向けた授業研究や研修会に小・中学校の教員が相互に参加して、学び合うことができました。平成29年度には「学校教育向上事業」研究指定校として、緑野中学校区における小中連携の取組の成果を発表しました。

また、平成29年度からは新たに平和の森小も加わり、小学校・中学校相互の交流が深まったこと、お互いの学校文化を知ることができたこと、こうした積み重ねが大きな成果の根底にあると感じています。今後も、これまでの取組を検証し、更に充実・発展させていきます。

南中野中学校・南台小学校・みなみの小学校

小中連携教育協議会

5月15日、南中野中学校を会場に第1回小中連携教育協議会を行いました。5校時に小学校の教員に「主体的・対話的で深い学び」をテーマにした各教科の授業を参観をしていただいた後、取組可能な小中連携について、「学力向上」「心の教育」「特別活動」をテーマに、5つの分科会に分かれて協議を行いました。その中で、SNS南中ルールに基づいた各小学校での取組、合同あいつ週間の実施、南中3年生の合唱コンクールの練習の2小学校6年生全児童による見学、南中学生徒作成の「中野の100冊」の推奨ポップ、美術作品・書き初めなどの小学校での展示等の具体案が確認されました。12月18日にみなみの小会場で実施された第2回小中連携教育協議会でも同一メンバーによる分科会で独自の取組について協議を更に深めることができました。



オープンキャンパス

今年で7回目を迎えるこの行事は、小学校6年生児童が不安を抱えることなく、中学校へ入学できるようにするための取組です。第1回は6月7日、第2回は10月4日に実施しました。1回目は6年生児童が中学生の授業を参観後、部活動の様子を見学しました。事前に小学校の教員が用意したワークシートに記入しながら、熱心に授業・部活動を見学していました。

2回目は児童が実際に中学校の先生による授業を体験しました。事前にアンケートをとり、児童は希望する授業に参加しました。体育館改修工事のため、部活動体験は今年は実施できませんでしたが、事後アンケートから、いずれの取組も児童に好評で、中学校入学に対する不安感が減少した分、希望や期待が増したようです。

乗り入れ指導

5月9日、13日と6年生の時に深く関わった南台・みなみの小学校の教員が中1の各教室にT2として入り、卒業後の生徒たちの様子や変化を見守りながら、乗り入れ指導をしました。生徒たちは久しぶりに小学校の教員の授業を受け、とても嬉しそうで、中1ギャップの解消につながりました。

中学校からの乗り入れ指導は、数学、英語科の教員がそれぞれ7月9日、9月6日に2小学校を訪問しました。小学校の教員と事前に打ち合わせをした同一の学習指導案で、T2として乗り入れ指導をしました。学校、学級によって児童の反応も様々でしたが、どの児童もいつもの教室で中学校の授業を体験することができて楽しそうでした。



発展期の新しい取組

南中野中学生会役員・生活委員が5月、9月と2月にそれぞれ1週間ずつ2小学校校門で、児童と共に朝のあいさつ運動を行いました。児童代表と大きな声で登校する児童を迎えることができました。

10月25日には南台小・みなみの小の6年生児童が来校し、3年生の合唱コンクール学年リハーサルを見学しました。本番さながらの中学生の力強い合唱に大きな拍手が起こりました。

また、中学生による「中野の100冊」を推奨するポップや「自画像」などの美術作品を両小学校で展示し、こちらも大好評でした。

7年間の小中連携教育を通して

多田小・中野神明小・新山小の3小学校時代から育てきた南中校区独自の取組を含めた現在の小中連携教育の強固な土台を礎に、今後の保幼小中連携に向けて南中野中・南台小・みなみの小との関係をさらに密に深めて児童・生徒の健全育成に努めていきます。

(9) 中野中学校区の取組

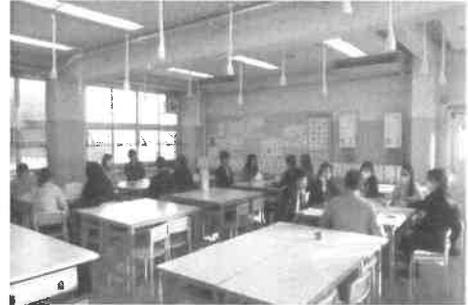
中野中学校・桃園第二小学校・桃花小学校・平和の森小学校

小中連携教育協議会

- ①令和元年 5月15日(水) 中野区立中野中学校
- ②令和元年12月18日(水) 中野区立桃花小学校

平成29・30年度の小中連携教育の研究発表会ではキャリア教育の充実を図る実践に取り組みました。今年度は、「研究発表やこれまで実践した連携事業をさらに充実させるために」と題したテーマを設定し、言語力向上分科会、道徳分科会、特活・総合分科会、健康安全分科会の4分科会で以下の3点について協議しました。

- ①今年度のこれまでの成果と年度末までの活動の確認
- ②今後継続して実践できること
- ③新たに充実させることができること



オープンキャンパス

- ①令和元年 6月7日(金)
- ②令和元年9月24日(火)



1回目は校内・授業見学を行いました。また、パワーポイントを使った生徒会による中野中学校の説明を聞きました。児童のアンケートから中学校生活に対するイメージが深まった様子がうかがえました。2回目は授業体験・部活動体験を行いました。今年度は実技教科を含む7教科を学習しました。当日の天候はあまりよくありませんでしたが、部活動体験を35分集中して取り組み、あっという間の時間だったようです。「部活動が楽しかった」という声がたくさんあがっていました。

乗り入れ指導

今年度の乗り入れ指導は、小学校三校から中学校へ4日間、中学校から小学校へ4日間行いました。

小学校からの乗り入れ指導は、5月に小中連携教育協議会の公開授業において英語、理科、社会、7月に体育、10月に理科、11月に英語の授業で乗り入れ指導を行いました。



中学校からの乗り入れ指導は、9月及び10月に体育の授業に中学校の体育教員が入り、より専門的な陸上運動を指導しました。10月の小学校の英語の授業では、中学校の教員が入って中学校教員の専門性を生かした乗り入れ指導を行いました。また、11月に小学校の家庭科の授業に中学校の家庭科の教員が入って、協力して実習しました。今年度の乗り入れ指導は、昨年と違う教科もとり入れ、小学校の指導にとっては多い学習になりました。また、中学校においても、母校の教員が指導にあたることで、中学生が安心して学習に取り組む姿が見られました。

発展期の新しい取組

〔合同行事〕今年度は、発展期の新しい取組として、以下の取組を行いました。



- ・平和の森小、桃花小の運動会に中野中学校の生徒がボランティアとして参加した。
- ・中野中学校の運動会に小学生を招待し、生徒会種目の借り物競走に参加した。
- ・桃園第二小作品展に中野中美術作品を展示した。
- ・中野中学校美術部作成の門を桃花小に掲示した。
- ・中野中図書委員会のおすすめの図書紹介を小学校に展示した。
- ・中野中学校の書き初め入賞作品を小学校で展示した。

7年間の小中連携教育を通して

昨年度の研究発表会で研究を進めたことを、昨年で終わりにせず、今年度も継続して深められるよう小中が連携して取り組みました。さらに小中連携教育をよりよい方向に進めていくために、小中連携教育のねらいを各学校、各職員が認識することが大切です。また、対象児童も毎年変わるため、どのように9年間の学びの連続性を深めていくのかが重要だと考えています。

(10) 中野東中学校区の取組

中野東中学校・桃園第二小学校・塔山小学校・谷戸小学校・白桜小学校区

小中連携教育協議会



公開授業の様子（連携して指導する音楽の授業）



分科会の様子（5つの分科会）

連携構想図を作成し、東中校区で育てたい15歳の姿を明確にした。

また、昨年度3つだった分科会を、「基礎基本の定着」「ICTの活用」「道徳」「特別活動」「スポーツライフ」の5つの内容に分けて、実際に分科会内容に関わっている教員を配置し、各校で専門的な知識や経験をもっている教員の力を生かし、充実した討議を進めることができた。



授業体験（音楽：一緒に体を使って歌う）



部活動体験（伝統文化「和太鼓」の演

オープンキャンパス

第1回の実施では、生徒会による中学校生活についての説明や授業見学を行った。

第2回の実施では、当日の授業体験や部活動体験を行った。授業体験では国語科の「昔話『浦島太郎』は本当は違うの？～お伽草紙『浦島太郎』より～」や数学科の「資料の活用～感覚がするどいのはどっち？～」など、児童の興味を引く内容を扱い、体験授業を計画・実施した。また、保健体育科や音楽科では中学生も体験授業に参加し、交流しながら活動した。

部活動体験では、短い時間ではあるが児童が選んだ部活動で中学生と一緒に活動し、楽しい時間を過ごすことができた。

乗り入れ指導

新しい取組として、土曜日の学校公開日に英語科の乗り入れ指導を実施し、小学校における外国語指導の充実と連携教育についての発信を、保護者や地域の方へ行うことができた。

また、保健体育科ではタブレットを活用した授業を通して、児童が中学生の演技動画を見る学習を実施した。児童からは「中学校でも同じ技をやるんだ」「集団で演技を作っていて楽しそう」「今日の授業を中学校でもやるのが良かった」などの意見が出され、小中における「学習内容の系統性」を再認識した。



保健体育の乗り入れ指導の様子



算数・数学の乗り入れ指導の様子



運動会での小中合同8の字跳び



合唱練習を見学しに小学生が来校

発展期の新しい取組

発展期の取組かつ中野東中校区における持続可能な合同行事として、大きく2つ取組を推進できた。

1つは運動会での「小中合同8の字跳び」である。生徒会の生徒と小学生の選抜チームが1つのチームとなり、中野東中の部活対抗8の字跳びにも参加していた。

もう1つは「文化発表会の見学」である。各教室での練習風景や体育館のリハーサル、そして緊張感ある本番の見学など、中学生の行事への取組を体感してもらう。

授業や部活とは異なる交流の機会であり、小学生アンケートからは「中学生はすごい」、中学生アンケートからは「小学生が来るといつも以上に力がみなぎる」など、前向きな感想が多い取組となっている。

7年間の小中連携教育を通して

中学校1校、小学校4校の大きな規模や統合後という背景の中、協力して連携教育を推進できた。小・中学校で共通した基礎基本の定義や、学習内容に即したICTの活用方法、道徳性を意識させるような啓発ポスターの作成、児童会・生徒会便りなどの情報共有や行動連携、食育や体力向上、オリンピック・パラリンピック教育を関連させた運動やスポーツに関わる態度の育成についてなど、具体的な取組の成果や課題について話し合いうことで、東中校区の連携教育として形ができては始めている。

V 7年間の成果と課題

小中連携教育のねらいである、小学校児童に中学校進学に安心感や憧れの気持ちをもたせること、中学校生徒に中学生になった自覚をもたせたり自己有用感を高めさせたりすることについては、保護者アンケートの肯定的な割合が上昇していることからわかる。また、小・中学校長会からは、小中連携教育のこれらの成果が、落ち着いた学校生活につながっているとの報告があった。

なお、3つの柱における7年間の成果と課題については、以下のとおりである。

小中連携教育に係る保護者アンケート結果 (%)

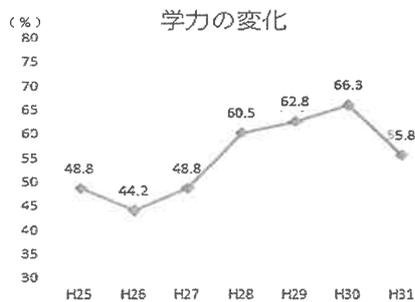
年度	平成 25 年度		平成 30 年度
小学校	61.3	⇒	66.2
中学校	70.3	⇒	80.9

〔質問項目〕

小学校「学校は、オープンキャンパスや乗り入れ指導等を通して、児童に進学への安心感や、中学校への憧れの気持ちをもたせている。」

中学校「学校は、オープンキャンパスや乗り入れ指導等を通して、生徒に中学生になった自覚をもたせたり、自己有用感を高めさせたりしている。」

学力向上

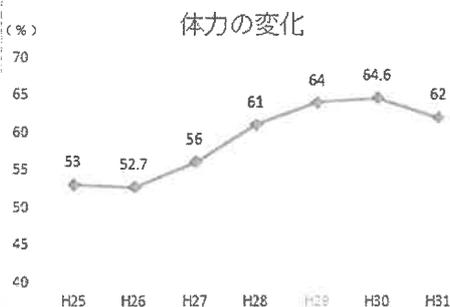


中野区学力にかかわる調査
目標値に達した児童・生徒の割合

中野区学力にかかわる調査の結果では、目標値に達した児童・生徒の割合が70%以上になることを目指している。平成31年度は下がったが、小中連携教育に取り組んだ7年間を全体的に見ると上昇傾向があり、一定の成果が現われている。その一因として、小中連携教育により、どの学校も落ち着いた安心・安全な教育環境の中、学習できていることが挙げられる。

一方、資料から考え、記述する設問では、数年来、無回答率が多いなどの課題も見られる。今後、児童・生徒に思考力・表現力や、語彙力を身に付けさせる取組が必要である。今後の連携教育では、教育内容（カリキュラム）を相互に理解し、学びの連続性に留意した課題解決が一層求められる。

体力向上

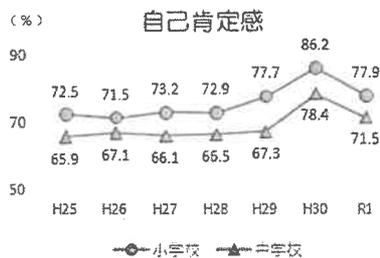


中野スタンダードで、通過率が
目標値に達した項目数の割合

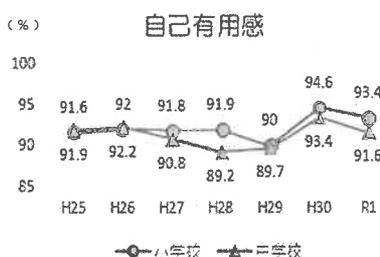
体力向上については、全体的に上昇傾向が見られた。特に中学校では男女ともに向上している。種目別では、「反復横跳び」「50m走」「持久走」で成果が見られるが、「握力」や「立ち幅跳び」「ボール投げ」といった種目で課題が見られる。

また、小学校の低学年で低い結果となっている。体力については、子どもを取り巻く環境や運動習慣、生活習慣など様々な要因が影響しているが、幼児期からの15年間を見据え、保幼小中はもとより、家庭や地域も巻き込んだ取組が必要である。

心の教育



全国学力・学習状況調査より
「自分にはよいところがあると思いますか」



全国学力・学習状況調査より
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

小中連携教育取組状況調査では、オープンキャンパスの取組について、小学生からは「中学校の生活を知ることができ、進学への不安を解消できた」などの声が聞かれ、進学への安心感や中学校への憧れの気持ちをもたせることに役立っていることがうかがえた。また、中学生からは「小学生に対して学校生活の様子を紹介する活動は、先輩としての自覚を高めるのによい機会となった」などという感想が挙がり、夏休みに中学生が小学生に勉強を教えるリトルティーチャーの取組や合同行事でのボランティアの活動などと合わせて、中学生の自信や自己肯定感・自己有用感を育ててきたところである。

これまでの小中連携教育では、安心感や自己肯定感・自己有用感を育てることにより、中1ギャップを解消し、学校不適応を起こさないようにすることもその大きな目標の一つとなっている。一方、近年の中野区における不登校の出現率は、国や都の傾向と同様、小中学校共に増加傾向にあり、本区における教育課題の一つとなっている。

今後も、教師が自己肯定感・自己有用感の醸成を意識した教育活動を展開し、繰り返し指導していくとともに、どの学校においても、それぞれの実情に応じた魅力ある学校づくりに努めることで、児童・生徒一人ひとりが自己実現できる環境を創造し、人格形成の基礎を得るようにしていくことが求められる。

【今後の保幼小中連携教育に向けて】

小中連携教育取組状況調査からは、「小学生が中学校に憧れの気持ちを持ち進学できた」、「中学生が自己有用感をもって生活している姿が見られた」といった意見が多く見られた。

また、教職員の連携についても互いを知るところからのスタートであったが、この7年間の取組を通して「距離が縮まった」「話し合いが活発になった。」といった意見も多く挙がった。

こうしたことから、これまでの「オープンキャンパス」「乗り入れ指導」「小中連携教育協議会」などの取組は一定の成果が見られたが、その場だけの取組で終わらぬよう、継続的な取組として常に見直していく必要がある。

また、これまでの小中連携教育は「学力向上」「体力向上」「心の教育」の3つの柱で推進してきたが、これからの新しい保幼小中連携教育では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」や小中学校の新学習指導要領で新たに示された「育成すべき資質・能力の三つの柱」に留意するとともに、一人ひとりの個に応じた指導である「特別支援教育」の視点も加えた4つの視点で、異なる校種等の教職員が互いに理解を深め、学校等間の円滑な接続や学びの連続性に留意した研究・実践を深めていくことが期待される。